

長野県消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会に出場！

木島平村消防団では、消防技術の向上のため、毎年消防ポンプ操法大会・ラッパ吹奏大会を開催しており、お互いのポンプ操法やラッパ吹奏の技術を競い合い、村の代表を決めています。

村の代表となったチームは、近隣の6市町村で行う『北信大会』に出場しますが、今年この大会で、自動車ポンプとラッパ吹奏の2種目で優勝し、県大会に出場する快挙を成し遂げました。

自動車ポンプが県大会に出場するのは昭和41年以来50年ぶりで、ラッパ吹奏も3年ぶりです。特にラッパ吹奏は北信大会のレベルが高く、北信代表のチームが県大会優勝をすることもありません。県大会の結果は、自動車ポンプが12チーム中7位、ラッパ吹奏が13チーム中8位と健闘しました。

今年の10月1日に調布市グリーンホールで開催される「木島平いくなか交流フェスタ in 調布」では、村消防団ラッパ隊によるラッパ吹奏も披露します。是非お越しください！



ポンプ車操法の部出場
南部分団第二部の選手
(大町、中町、西町地区)



ラッパ吹奏の部出場
ラッパ隊の選手

柱松子の「思い出」

さいたま市 小林荘志(内山出身)

私の生まれ育った内山地区での思い出を話したいと思います。

広報「きじま平」に連続掲載されている樋口先生の「ふるさとの村を歩く」を毎月楽しみにしています。以前6月に「平成の名水龍興寺清水と内山和紙」が載っていました。この他にも、毎年夏に行なわれる国の選択文化財指定を受けている、村の無形民族文化財、伝統行事「内山柱松子(柱松柴燈神事)」があります。村には、内山の他に南鴨地区大塚山でも催されています。また3年毎の7月に開催の飯山市小菅権現の柱松子は有名です。このお祭り当日は、中村の神社にも小菅市が建ち、テント張りのお店に赤々と電球を灯らしていた遠い昔の思い出があります。

明治以前から今も継続されている内山の柱松子は、毎年7月20日前後の土曜日に開催されています。そもそも、戸隠修験道の験競べ(げんくらべ)に由来する神事といわれている行事です。

美しくも厳しい北信の自然と共に生きてきた昔の村人、その長い歴史の中で、脈々と守り受け継がれてきた伝統文化。村人は神に五穀豊穡を祈り、天下泰平を願って来ました。伝統文化を継承することで、先人たちの英知を学び、心を知ることが出来ます。村民はそれを暮らしの支えとして、心の豊かさを育んで来ました。まさにこれはふるさとの宝です。北信地方の古くから伝わる盆踊り、からす踊り、秋祭り、その他沢山ある行事。柱松子はその象徴でありましょう。

内山地区では、年中行事として1月に「道祖神」、4月「桜観世音祭」、7月「柱松子」、9月「八幡神社秋祭」、10月「龍興寺清水

祭」等が開催され、近隣から大勢の人が集まり賑わっています。

写真は「内山柱松子」の1場面です。写真Aの赤いお神輿で火の周りを走り巡るは当夜のクライマックスの1つで、この「大日王さん」と呼ぶ赤い神輿は、内山区青年衆の選ばれた10数名の若者が夕方からお神酒の力を借りて、区内の東西南北、田畑、農道はじめてとする集落路を無災豊穰を願って走り巡り、時間を図って村外れの畑の中に祀ってある大日如来堂前広場の燃え盛る焚火の前へとその豪姿を見せます。この神輿は別名「荒れ神輿」として有名で、農道側の田畑は蹴散らされ、その他の損壊事故もこの日ばかりは放免されます。

神輿が奉納され、静まり返ったお堂前の焚火広場には、メインの催事第2場、柱松子が挙行されます。

催事に参加できるのは、小中学生男児が年齢別に抽選で10人が1カ月ほど前に選出されます。休校日を利用して村の氏子青年衆と共同作業で柱の材料の雑木・野草を伐採して準備し、祭り前に大日如来堂前広場の両角に並べて、縄で結わいた直径2m、高さ4m位の柱に人が乗れる足場を設けて建てます。(写真A 赤い神輿の後ろの柱)

祭りは夕食後、区民は大日如来堂前広場の焚火の回りに陣取ります。その年にもよりますが、夜8時過ぎ頃に催事は始まります。神事は「上(かみ)柱」と「下(しも)柱」の2本の柱松に火打石で火をつける早さを競い、その年の「天下泰平」、「五穀豊穰」を占うといった神事です。上柱に先に火が付けば、その年は「天下泰平」、下柱だと「五穀豊穰」だと言われます。

緋浴衣の正装に身を包んだ少年達の役割は、柱に上って陣取る松神子に、ご幣などを競って柱の上へ渡す役割の少年、また、合図の太鼓を打つ天狗面の松太鼓役の少年達です。各少年松子は青年団の大人に肩車されて、手に持ったご幣や葵木、カヤ等をそれぞれが、天狗面の松太鼓の音で、時々いい加減な偽合図もする太鼓の音で、柱の少年柱神子に手渡し、最後に火打鉄(ひうちがね)を渡し

て火打石での着火競争となります。

柱頭上に奉て並べられたご幣に着火して、上柱、下柱の決着を見てお祭りは終了します。燃え上がった柱松は倒され、虫除けのお守りに参加者は競って持ち帰ります。当夜、帰宅後の各家でひえた西瓜をほう張り、ソバで腹ごしらえするのが慣わしとなっています。しかし、今ではどこの地域においても、若者や子供が少なくなり、柱松子に限らず、伝統神事の継続には苦労されている様子です。



写真A: 「お天王さん」といわれる赤い神輿、(別名荒れ神輿)が燃え上がる火の周りで揉み合う勇壮な神事は、火付けの神事に並ぶ見どころ。



写真B: 緋の浴衣の正装に身を包んだ柱神子たち。後ろの朱の衣に天狗面の少年は松太鼓役の神子。手前右からカヤ、2人目は火打鉄、3番目は天狗、4番目葵木、最左の火の奥はご幣を担当する神子達です。

会報原稿募集中!

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。「村の思い出」「身近な出来事」など、木島平村に関係することであれば何でもOKです。

【送付先】〒389の2392 木島平村役場内、ふるさと応援団事務局

fax 026908204121 ☐kicho@kijimadaira.jp まで